

どんなところに行かれて、どんな話をされ  
たんですか。

**幸綱** 例えば京都にいっしょに行つたよ  
ね。京都大学におられた文化人類学の今西  
錦司さんと開高さんが対談をした。猿の話  
などが話題だったけどね。そのことで一緒  
に京都に行つて、遅くまで飲んで、京都に  
泊まつたんだと思う。

**犬飼** 開高さんも一九六四年に朝日新聞社  
臨時特派員としてベトナム戦争に行かれま  
したね。お二人でそれぞれベトナム戦争の  
思い出話とかされたんですか。

**幸綱** それはどうだったかなあ。忘れまし  
たね。開高さんもよくお酒を飲む人でね。

**犬飼** その辺の各作家たちとの交流話を一  
冊の本で新潮社か河出書房あたりで出すと  
いいなあと。

**幸綱** 俺は出てこないけど、開高健さんの  
対談集として、一年間分が河出書房で一冊  
になっている。深沢七郎、金子光晴、井伏  
鱒二とか、十二人へインタビューしたのが  
一冊になったのはあるよ。

**犬飼** 次ですが。「歌壇」一月号の「定綱  
が訊く」で、頼綱さんが「アララギ」っぽ  
い歌を作つたら、幸綱から「こんな歌を作つ

てちゃダメじゃないか。歌を作るとい  
うのは自分以上の物になる為だぞ」と怒られた  
というお話が出てきますが、そのときに頼  
綱さんが作られたのはどんな歌でしたか。

**幸綱** これは頼綱とは関係なくて、譬え話  
として聞いてくれればいい。息子には俺よ  
り大きくなつてほしいと思つて育てるよ  
ね。子供が自分のミニチュアになつたら困  
る。そういう話の延長だと思ふ。歌もそう  
で、自分より小さい歌を作つたら、作者の  
分身以下の歌だったら面白くも何ともな  
い。出来るかどうかわからないが、自分よ  
り大きい作品を作りたい、そういう幻想が  
けつこうあるんじゃないかという話だと思  
います。

**犬飼** あと二つ。  
**幸綱** ずいぶんあるなあ(笑)。

**犬飼** 『反歌』の「五月の死 悼寺山修司」  
で、〈新婚の君の家に「祭」を書きし日よ、  
歌人やめろと我を誘いき〉がありますが、  
「祭」すなわち、谷川俊太郎、寺山修司、  
佐佐木幸綱の「共同制作」はどういうもの  
ですか。

**幸綱** 角川「短歌」に載ってます。天井棧  
敷が出来る前だったのかなあ、「一緒にや

ろうよ」という話があった。

**犬飼** 先生に、演劇とか、映画とかを一緒  
にやろうよということですか。

**幸綱** そう。演劇はどうかわからないけ  
ど、文学少年はみな映画には魅力を感じて  
いた。俺もそうだった。映画の世界は楽し  
そうだったよね。そういう時代だったから  
ね。テレビがはじまつたばかりでさ。

**犬飼** 寺山修司から「短歌をやめろ」と誘  
われてどのように返事をされたんですか。  
**幸綱** やめないということになって、今に  
なつたわけだ(笑)。

**犬飼** もう一つ。『灌の時間』の中で、へわ  
れの一生になからん快樂、小面をつけて視  
線の矢に死ぬ快樂、「ロッククライミング  
と仮面劇は今もやっていないので快樂だ」  
とおっしゃってますが、ロッククライミン  
グはさておき、仮面劇は今もやってみたい  
と思われませんか。

**幸綱** ロッククライミングと海に潜るや  
つ、その二つはやりたいけれどダメだろ  
うなあと話だけど。仮面劇の話をしてた？

**犬飼** ええ。小面をつけて能舞台に立つて  
みたいとか。あれ、私も一回、やったこと  
がありますが、怖いですね。視野が狭くな